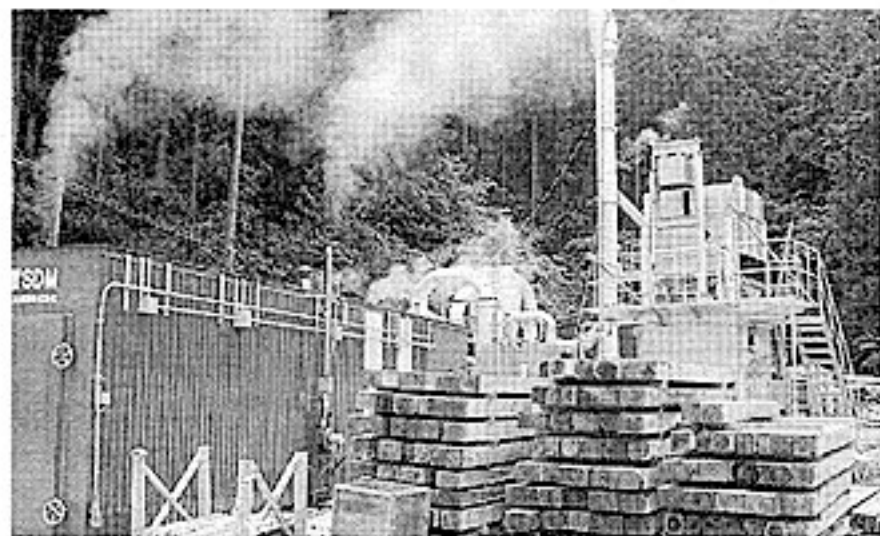


# 乾燥コスト削減で 木屑焚きボイラー導入

## バイオマス発電も検討へ



導入した木屑焚きボイラー（手前には乾燥機）

（気）を取っている。重油を全く使用しておらず、燃料代の大幅カットが可能になった。また、ボイラー上部に木屑導入口があり、下部で燃焼することから火の粉が飛び散らず、煙

「隠岐の黒松」で知られる隠岐島木材製材業協同組合（島根県隠岐郡、池田裕茂理事長）製材事業部（ウッドヒル隠岐）は、このほどバイオマスの取り組みから木屑焚きボイラー（メーカー・ワールドテクノ）を設置した。同ボイラーは高温乾燥機2基の熱源利用に使用され、大幅なコスト削減を図っている。

同協組は構造材のクロ松平角の乾燥を目的に、乾燥機を設置してきた。また、従来から乾燥機の熱源利用には油焚きボイラーを活用していたが、昨年、火災により消失。このため、新たに高温乾燥機

2基を昨年秋に設置し、今回、木屑焚きボイラーを導入した。

同ボイラーは油焚きとの併用になるが、現状、樹皮（生皮）を含めて木屑だけで乾燥機2基（1基の容量16立方メートル）の熱源（水蒸

気）を取っている。重油を全く使用しておらず、燃料代の大幅カットが可能になった。また、ボイラー上部に木屑導入口があり、下部で燃焼することから火の粉が飛び散らず、煙

がほとんど出ないのが特徴。  
先行きは木屑焚きボイラーに付随した形で、バイオマス発電の対応も検討する。また、もともと地元では天然乾燥が求められてきたが、最近の傾向としてKD需要も増えつつあり、乾燥機の増設を考えている。ただ、クロ松の良さである美しい色合いを残すことに試行錯誤の段階という。